

たかつかさ保育園におかえりなさい。本日は交流フリーマーケットに来て下さってありがとうございます。久しぶりの保育園は昔と変わっているでしょうか？僕は現在の園長の池添鉄平です。藤井修前園長から2015年に重いバトンを受け継ぎました。改めまして、どうぞよろしく申し上げます。ここでは卒園児や保護者、OBの方々に現在のたかつかさ保育園の様子をお伝えさせていただきます。書くべきことがいっぱいあって長くなってしまいましたが、お付き合いください。



37年の時を重ねて豊かな緑があふれる園庭では、歴代のそう組さんの手作りこいのぼりが気持ちよさそうに泳ぎながら子ども達を見守ってくれています。先日はプール付近の枯れかけたグミの木にコゲラ（キツツキ）が巣作りをして綺麗な丸い穴を作っていました。昔もそうだったと思いますが、今も夏になるとセミがうるさい程賑やかになり、子ども達が狙いを定めて網を操っています。たくさんの木々は豊かに育ち、お誕生日には季節の実を採って、おやつで食べるお誕生日ゼリーも継続できています。あ

りがたい事です、年3回のピカピカデーでの伐採作業は年々難易度が上がっています。夏祭りは毎年その時々のテーマで行い、盆踊り、ナイアガラ花火は定番になっています。秋の運動会は昨年度から大將軍小学校の運動場をお借りして開催しています。そう組さんの愛宕山登山も秋に取り組んでいます。保護者会主催のバザーも毎回盛大に行われています。今年度は11月12日（日）です。相変わらず節分にはこわ〜い鬼さんが3人やってきます。「他の事は忘れたけど、鬼の事だけはハッキリ覚えている！」と卒園児からよく聞くセリフです。

「一人ひとりを大切に」はたかつかさ保育園の大切な理念です。また、学校臭くならないように、マンネリにならないように、どの子ども大事にした保育内容を実践しています。乳児保育では「流れる日課」「育児担当制」と呼ばれる方法を取り入れています。自律を促し、より丁寧に関われるように、なんでも集団で行動するのではなく、少人数で着替えや食事など生活行為を行なえるように取り組んでいます。

昨年度から「保育者と保護者がつくる、一人ひとりの子どもが主役の園庭」をテーマに園庭改造に取り組んでいます。「遊びは生きる力の源」「遊びとは子どもの命が一番輝く事」「遊ぶことで唯一無二の自分がつくられていく」「遊びを通して人と共に生きていく力を身に付ける」などなど、子ども時代に自分らしくたっぷりしっかり遊ぶ事を大切にしたいという考えを土台にして、もっと子ども達の遊びが広がり深まるように、保護者の方々と一緒に園庭環境の改造を進めています。サイクリングロードをつくり、キックバイクも導入、綱渡りロープ、手作り屋台・机など新しい環境を創造しています。

たかつかさの給食も変わらず「手作り」にこだわって美味しい給食とおやつを提供しています。離乳食も一人ひとりのペースに合わせて用意をしています。幼児クラスのおやつは選択制を取り入れてより楽しい時間になるように工夫をしています。2011年の東日本大震災での福島第一原発事故以後、子どもが食べる食材は微量の被ばくも避けるべきと考え「基本的に西日本産の食材を使用する。西日本以外の食材は放射能測定をして安全性を確認してから使用する」を給食の方針にしています。測定は京都・市民放射能測定所 三条御前測定依頼所に発注しています。2016年度は28検体のセシウム134・137の測定を行いました。



2003年頃から始まった蚕さんの飼育は、もちろん今も継続中で今は2000頭の蚕を飼育しています。蚕が縁でいろいろなつながりが広がっています。美山町豊郷ではたかつかさ保育園の養蚕を知って下さった方々が、NPO法人「京都桑田村」という架空の村を立ち上げ過去の経験を活かして桑畑をつくり桑の葉を供給して下さっています。無菌養蚕システム研究所さんには育てた蛹を買い取って頂いています。サブリなどに加工されます。地域の方々に協力してもらい糸織り作業なども行っています。シルクアートの伊豆蔵明彦さんのアドバイスを頂きながら、園内に展示している繭を使った卒園制作も増えてきました。バケツ稲の取り組みも継続して行っています。



5月現在、たかつかさ保育園には142名の0歳～6歳までの子どもたちが在籍しています。2015年に定員を140人にしました。それまでは120人定員の時代が長くあり、待機児童対策の定員緩和で162人在籍している年度もありました。2015年に「子ども子育て支援新制度」という新制度に変わりました。簡単に言うと幼稚園と保育園の他に「認定こども園」という施設ができました。幼稚園と同じ直接入所方式で行政が介入せずに、施設と保護者と契約をします。保育を市場化させるのではなく、福祉としての保育であるべきと考え、たかつかさは保育園としてありたいと思っています。また昨年は「保育園落ちた、日本死ね」で話題になった待機児童問題も深刻です。京都市は今年度4月も待機児0と発表していますが実感とは遠いです。保育士不足・保育士の処遇問題も深刻です。たかつかさ保育園も経験年数が高い職員が少なくありません。その分人件費も少なくありません。豊かな保育環境を守っていくのは、なかなか現在の国や市からの運営費だけでは厳しい現状です。まさしく今日のような日には強く思いますが、保育士や調理師が長く働き続ける事で、子どもや保護者・地域にとっての財産になりたいと思っています。

昨年度、中長期維持管理計画検査を実施しました。結果を要約すると「園舎本体は耐震診断やコンクリートの中性化など基準を満たし、維持管理を適切にしていけば60年近くは問題がない。しかし修繕周期が来ているものも多い、それ以外にも数年で改修が必要なものも多く計画と修繕費が必要である。」現在38年目です。本体はまだ大丈夫ですが、設備面では故障したり、漏水したり、雨漏りしたり、サビついたり、汚れたり、ヒビが入ったり・・・言い出すと切りがないですが、毎年修繕するべき箇所があります。それにプラスして本体を維持管理していく為に外壁や屋根の修繕も計画と費用が必要という状態です。また20数年後に来るであろう建て替えについても積み立てをしていきたいですが、なかなか、、というのがハード面での大きな課題です。

前述したように2015年に藤井修前園長、2016年には須藤智代子前主任、2017年には柘山延子先生が退職をされました。今後も職員の入れ替わりが続く時期を迎えます。卒園児が職員として戻ってきてくれています。

2003年卒園の林楓華さんは保育士として、1995年卒園の北田綾香さんは管理栄養士として元気に働いています。他にも有望な若い職員をたくさん迎え、第2期のたかつかさ保育園として文化継承・新人育成をテーマに、職員一丸となって、たかつかさ保育園の築いてきた文化を守り発展させ、変化するべき所は新しい実践を積み重ねて日々奮闘しています。



これからも子どもを真ん中に保護者・卒園児・卒園保護者・退職職員・地域の方々…みなさんとつながりながら歩んでいきたいと思っています。

2019年度には創立40周年を迎えます。

これからもたかつかさ保育園に温かい応援をよろしくお願い致します。

ホームページ <http://hb8.seikyoku.ne.jp/home/hoikuen-takatsukasa/>

毎月園だよりや写真を更新しています。